

クリニカルラダーの各レベル毎の定義と行動目標

平鹿総合病院

		レベルⅠ	レベルⅡ	レベルⅢ	レベルⅣ	レベルⅤ
レベル毎定義		基本的な看護手順に従い、必要に応じ助言を得て看護を実践する	標準的な看護計画に基づき、自立して看護を実践する	ケアの受け手に合う個別の看護を実践する	幅広い視野で予測的判断を持ち、看護を実践する	より複雑な状況において、ケアの受け手にとって最適な手段を選択し、QOLを高めるための看護を実践する
レベル毎目標		助言を得てケアの受け手や状況のニーズを捉え、安全に看護を実践する。関係者と情報を共有し、ケアの受け手の意向を知る	ケアの受け手のニーズを自ら捉え、状況に応じた看護を実践する。看護展開に必要な関係者を特定し情報交換の上、ケアの受け手や周囲の人々の意向を看護に活かす事が出来る	ケアの受け手の個性や優先度の高いニーズを捉え、看護を実践する。多職種と連携し意思決定に必要な場を設定できる	ケアの受け手の状況を統合したニーズを捉え、様々な技術を選択・応用し看護を実践する。多職種との連携を調整し意思決定に伴う揺らぎを理解し、選択を尊重できる。	ケアの受け手の状況の関連からニーズを捉え、創造的な看護を実践する。複雑なニーズへの対応や意思決定プロセスにおいて、他職種の力を引き出すような調整的役割を担う。
看護の核となる実践能力	ニーズをとらえる力	行動目標 □助言を受けながらケアの受け手に必要な身体的、精神的、社会的、スピリチュアルな側面から情報収集ができる □ケアの受け手の状況から緊急度をとらえる事が出来る	行動目標 □自立してケアの受け手に必要な、身体的、精神的、社会的、スピリチュアルな側面から情報収集ができる □得られた情報を基に、ケアの受け手の全体像としての課題をとらえる事が出来る	行動目標 □ケアの受け手に必要な身体的、精神的、社会的、スピリチュアルな側面から個別性を踏まえ情報収集ができる □得られた情報から優先度の高いニーズをとらえる事が出来る	行動目標 □予測的な状況判断の元、身体的、精神的、社会的、スピリチュアルな側面から必要な情報収集ができる □意図的に収集した情報を統合し、ニーズをとらえる事が出来る	行動目標 □複雑な状況を把握し、ケアの受け手を取り巻く多様な状況やニーズの情報収集出来る □ケアの受け手や周囲の人々の価値観に応じた判断出来る
	ケアする力	行動目標 □指導を受けながら看護手順に沿ったケアが実践できる □指導を受けながらケアの受け手に基本的援助が出来る □看護手順やガイドラインに沿って基本的看護技術を用いて看護援助が出来る	行動目標 □ケアの受け手の個性性を考慮しつつ標準的な看護計画に基づきケアを実践できる □ケアの受け手に対しケアを実践する際に必要な情報を得る事が出来る □ケアの受け手の状況に応じた援助が出来る	行動目標 □ケアの受け手の個性性と合わせて適切なケアを実践できる □ケアの受け手の顕在的、潜在的ニーズを察知しケアの方法に工夫が出来る □ケアの受け手の個性性をとらえ、看護実践に反映できる	行動目標 □ケアの受け手の顕在的、潜在的ニーズに応える為、幅広い選択肢の中から適切なケアを実践できる □幅広い視野でのケアに受け手を捉え、起こりうる課題や問題に対して予測的及び予防的に看護実践できる	行動目標 □ケアの受け手の複雑なニーズに対応するためあらゆる知見(看護および看護以外の分野)を動員し、ケアを実践・評価・追及できる □複雑な問題をアセスメントし、最適な看護を選択できる
	協働する力	行動目標 □助言を受けながらケアの受け手を看護援助していくために必要な情報が何かを考え、その情報を関係者と共有する事が出来る □助言を受けながら、チームの一員としての役割を理解できる □助言を受けながらケアに必要な判断した情報を関係者から収集する事が出来る □ケアの受け手の取り巻く関係者の多様な価値観を理解できる □連絡・報告・相談ができる	行動目標 □ケアの受け手を取り巻く関係者の立場や役割の違いを理解したうえで其々と積極的に情報交換できる □関係者と密にコミュニケーションを取る事が出来る □看護の展開に必要な関係者を特定できる □看護の方向性や関係者の状況を把握し情報交換できる	行動目標 □ケアの受け手の個別的なニーズに対応するために、その関係者と協力し合いながら他職種連携を進めていく事が出来る □ケアの受け手とケアについて意見交換できる □積極的に他職種に働きかけ、協力を求める事が出来る	行動目標 □ケアの受け手が置かれている状況(場)を広くとらえ、結果を予測しながら他職種連携の必要性を見極め、主体的に他職種と協力しあう事が出来る □他職種間の連携が希望するよう調整できる □他職種の活力を維持・向上させる関わりが出来る	行動目標 □複雑な状況(場)の中で見えてくなくなっているケアの受け手のニーズに適切に対応するために、自律的な判断のもと関係者に積極的に働きかけることができる □他職種連携が十分に機能するよう調整できる □他職種間の中心役割を担う事が出来る □目標に向かって他職種の活力を引き出す事が出来る
	意思決定を支える力	行動目標 □助言を受けながらケアの受け手や周囲の人々の思いや考え、希望を知る事が出来る	行動目標 □ケアの受け手や周囲の人々の思いや考え、希望を意図的に確認する事が出来る □確認した思いや考え、希望をケアに関連付ける事が出来る	行動目標 □ケアの受け手や周囲の人々の意思決定に必要な情報を提供できる □ケアの受け手や周囲の人々の移行の違いが理解できる □ケアの受け手や周囲の人々の意向の違いを多職種に代弁できる	行動目標 □ケアの受け手や周囲の人々の意思決定プロセスに看護職の立場で参加し、適切な看護ケアを実践できる	行動目標 □適切な資源を積極的に活用し、ケアの受け手や周囲の人々の意思決定プロセスを支える事が出来る □法的および文化的配慮など多方面からケアの受け手や周囲の人々を擁護した意思決定プロセスを支援できる
	自己教育・研究能力	レベル毎目標 指導助言を受けながら自己の教育的課題に気づき学習に取り組む事が出来る	レベル毎目標 自己の教育的課題を明確にし、達成に向けて学習する	レベル毎目標 自己学習に積極的に取り組むと共に、教育的活動において指導的役割を実践する	レベル毎目標 自己のキャリア開発において目指す方向性を明確にすると共に、主体的に研究に取り組み実践現場のロールモデルとなる	レベル毎目標 単独で専門領域や高度な看護技術について教育活動を展開すると共に組織の発展に向けた関わりを持つ
	自己教育力	行動目標 □指導、助言を受けながら自らの実践を定期的に見直しできる □職能団体の活動を理解し、その一員であることを理解する	行動目標 □自らの基本的看護実践を定期的に見直しできる □職能団体に所属し、目的意識を持ち講演会や研修、学習に参加する □プリセプターとして後輩の指導、支援ができる	行動目標 □自らの看護実践を定期的に見直しできる □専門職としての継続教育を理解し、学習に取り組む事が出来る □学生を含めた部署スタッフの教育的活動について指導的役割を実践できる	行動目標 □所属部署における看護提供において、主導的役割を示す □所属部署のロールモデルとして自らの実践を積極的に見直し事が出来る □効果的なメンターとして行動できる	
	研究能力	行動目標 □新人対象の院内研修に参加する □院内の研究発表会に参加する □自身の看護観に取り組み発表する事が出来る	行動目標 □ナラティブに取り組み発表する事が出来る □部署における研究メンバーとして関わる(直近2年以内)	行動目標 □ナラティブレポートにアドバイスできる □倫理的視点を持ち課題に基づき取り組んだケースをまとめ発表できる	行動目標 □主研究者として看護研究に取り組み、まとめることができる(直近2年以内)	
組織的役割遂行能力	レベル毎目標	社会人・組織人としての自覚を持ち行動する。指導、助言を受けながら、チームメンバーの役割を遂行できる	組織の中でチームメンバーとしての役割を果たすと共に、係りや委員会活動に参加する	看護チーム全体の状況をとらえチームリーダーやコーディネーターの役割を遂行する。	所属する部署において必要とされる専門的能力を身に付け指導的役割を遂行する	
	管理能力	行動目標 □指導・助言を受けながら仕事の優先順位がわかる □医療安全及び感染防止マニュアルを知っている □院内災害対策マニュアルを知っている □災害時の避難経路及び患者搬送が理解できる	行動目標 □勤務時間帯における仕事の優先順位がわかり時間管理できる □マニュアルを参考にしながら安全・感染防止対策が実施出来る □災害時、所属部署のアクションプランに基づき行動できる	行動目標 □基本的看護実践の指導援助を行う □勤務時間帯における仕事の優先順位がわかり時間管理について指導できる □日常的に安全・感染防止対策が実施出来る □災害時、所属部署のアクションプランに基づき、指示指導できる	行動目標 □所属する部署において効率的な看護実践が出来るようチームメンバーの配置や業務の調整が出来る □災害時アクションプランの作成と評価、その見直しに参画できる □所属部署における定期的災害訓練を計画・実施できる □所属部署における業務改善、基準・手順などの改定に参画できる	
	対人関係能力	行動目標 □社会人、組織人としての自覚を持ち行動できる □チームメンバーとしての役割を理解し助言を受けながら行動できる □自らの能力を超えた看護ケアの実施について相談できる □日本看護協会発行「看護者の倫理綱領」を理解できる	行動目標 □組織人として院内ルールを守り行動できる □チームメンバーとしての役割を説明でき責任を持つ事が出来る □日本看護協会発行「看護者の倫理綱領」に基づき行動できる □係りや委員会メンバーとして活動できる	行動目標 □倫理的視点を持ち課題に基づき発言できる □チームリーダーとしての責任と自覚を持ち行動できる □看護チームの実践を評価しフィードバックできる	行動目標 □必要に応じ、他職種と相談しながらより良い看護実践が出来る □倫理的課題に対し倫理原則に基づき状況判断し意思決定できる □所属部署の看護実践を評価しフィードバックできる	